

## 「平成25年度 病害虫発生予報第3号」の発表について

向こう1か月の主要な病害虫の発生予察情報については、次のとおりです。

- ・ 水稻では、斑点米カメムシ類の発生が多くなると予想されます。本害虫の生息地となる休耕田、畦畔及び水田周辺の除草を定期的に実施してください。
- ・ 野菜、花きでは、アブラムシ類の発生が多くなると予想されます。これら害虫は、発生密度が高くなつてからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、発生初期での防除を実施してください。
- ・ 茶では、チャノコカクモンハマキの発生が多くなると予想されます。地域の発生状況に応じて、防除を実施してください。

### 病害虫防除に関する留意点

- ・ 病害虫防除を効果的に実施するためには、病害虫の発生状況を的確に把握し、適期の防除につなげることが大切です。病害虫の発生は天候の影響を大きく受けるので、天候の状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報に基づき、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。
- ・ 薬剤防除を実施する場合には、適切な薬剤を選択するとともに、病害虫が薬剤抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- ・ また、農薬の使用基準を遵守し、散布対象外の農作物等に農薬が飛散しないよう対策を講じてください。このことについては、農林水産省が、6月から8月にかけて、厚生労働省、環境省等と共同で実施する「農薬危害防止運動」においても注意を呼びかけています。

(参考) 平成25年5月10日付けプレスリリース「農薬危害防止運動」の実施について

<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouyaku/130510.html>

### 水稻

- ・ **いもち病**の発生は、東海の一部地域で「やや多い」と予想され、その他の地域では「平年並」以下と予想されます。  
1か月予報（6月7日気象庁発表）では平年と同様に曇りや雨の日が多いと予報されています。梅雨の時期は、いもち病が発生しやすい気象条件となり、いもち病が急激に発生する場合があるので、注意が必要です。  
また、田植え後に水田に放置された補植用取置き苗はいもち病の伝染源となるので、早期の除去を徹底してください。

- ・ イネドロオイムシの発生は、北陸及び近畿の一部地域で「やや多い」、イネミズゴウムシの発生は、南東北、北陸、東海及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
育苗箱施用剤による防除を実施していない場合は、適期に水田での防除を実施してください。
- ・ 斑点米カメムシ類の発生は、北東北及び東海の一部地域で「多い」と予想されます。  
本害虫の生息地となる休耕田、畦畔及び水田周辺の除草を定期的に実施してください。

## 野菜・花き

### 露地栽培

- ・ 気温の上昇に伴い病害虫の動きも活発になるので、ほ場観察を行い病害虫の早期発見に努め、発生を認めた場合は適期に防除を実施してください。

### 発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及び地域（露地栽培）

作物名	病害虫	発生が「多い」地域	発生が「やや多い」地域
キャベツ	アブラムシ類		南関東
ねぎ	アザミウマ類	四国	北東北、東海、北九州
	アブラムシ類	近畿	

### 施設栽培

- ・ 気温上昇に伴い、栽培管理上施設を開放する機会が増えるので、病害虫の施設への侵入及び野外への飛び出しに注意が必要です。
- ・ 施設内が過湿になると病害の発生が助長されるので、施設周辺に排水路を整備して、雨水が施設内に入らないように留意するとともに、作物の株間の通風を図る等、施設内が過湿にならないように管理してください。また、病害の早期発見に努め、伝染源となる罹病葉や罹病果は除去し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ ウィルス病を媒介するアザミウマ類、コナジラミ類等の侵入又は野外への飛び出しを防止するため、施設の開口部に防虫ネット等を設置するなどの対策を実施してください。また、雑草はこれらの害虫の発生源となりますので、施設内及び周辺の定期的な除草に努めてください。
- ・ 栽培終了後は蒸し込み処理等を行い、作物残渣での生存虫を死滅させてから搬出し、土中に埋める等確実に処分してください。

■ 発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及び地域（施設栽培）

作物名	病害虫	発生が「多い」地域	発生が「やや多い」地域
いちご	うどんこ病	四国	中国
	炭そ病		近畿
	灰色かび病		南関東
	アブラムシ類		四国、北九州
きゅうり	うどんこ病	北陸	
	べと病	南関東、北陸	
	アブラムシ類	近畿	南関東
トマト	疫病		中国
	灰色かび病		南関東
	葉かび病		北陸
	アブラムシ類		近畿
	コナジラミ類	南関東	
なす	アブラムシ類	近畿	南関東
きく	黒斑病、褐斑病	東海	
	白さび病		近畿
	アザミウマ類	南九州	東海
	アブラムシ類		東海、近畿

注) 表中の地域については、その地域全域で発生がみられるものではありません。

### きゅうり

- ・ **べと病**は、施設内が過湿となると発生が助長されるので、株間の通風を図る等により、過湿にならないように施設を管理してください。また、多発すると防除が困難となるので、施設内の観察により発病を認めた場合は、早期に薬剤防除を実施してください。

### なす

- ・ **アブラムシ類**は、発生密度が高くなつてからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、発生初期での防除を実施してください。

### 果樹・茶共通

- ・ 果樹カメムシ類の発生は、南九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、北東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
本害虫は、越冬場所である山林から飛来してくるので、例年、カメムシ類の被害が多い園地や山林に隣接した園地では、園内の観察をきめ細かく行ってください。また、飛来が認められた場合は、飛来初期から防除を実施してください。

### かんきつ

- ・ ミカンハダニの発生は、東海の一部地域で「多い」又は「やや多い」、北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
本害虫は、気温が高く雨が少ない場合に発生が多くなります。天候の推移に注意し、園内の観察をきめ細かく行い、発生初期から防除を実施してください。

### りんご

- ・ 黒星病の発生は、南東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
散布間隔が開きすぎないように落花期以降の薬剤防除を確実に実施し、発病葉、発病果及び発病した新梢の除去に努めてください。
- ・ 腐らん病の発生は、甲信の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
園内の観察をきめ細かく行い、罹病枝の除去、病斑部の削り取りと薬剤塗布を適切に実施してください。また、摘果後の果柄から感染するので腐らん病の発生が多い園地では、摘果終了直後の薬剤散布を実施してください。
- ・ 斑点落葉病の発生は、北陸の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
本病は、降雨時の気温が高く、降雨が続くと発病が助長されます。また、密植や徒長枝により通風や採光が悪いと発病が多くなります。徒長枝の除去等により通風や採光を確保するとともに、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ ハマキムシ類の発生は、北東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。

### なし

- ・ 黒星病の発生は、東北の一部地域で「多い」又は「やや多い」、南関東及び東海の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
本病の伝染源となる発病葉、発病果及び発病した新梢は、除去して園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は降雨が続くと発病が助長されるので、天候の推移に注意し、散布間隔が開きすぎないように降雨の合間に薬剤防除を実施してください。
- ・ ナシヒメシンクイの発生は、北陸及び近畿の一部地域で「やや多い」、ハマキムシ類の発生は、北陸及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。

## ぶどう

- ・ **ベと病**の発生は、甲府及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病の伝染源となる発病葉及び発病果は、除去して園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は降雨が続き気温が低めの時に発生しやすいので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

## もも

- ・ **せん孔細菌病**の発生は、南東北の一部地域で「多い」又は「やや多い」、近畿の一部地域で「多い」、甲信の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病の伝染源となる枝病斑を形成した枝は、除去して園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は気孔や傷口から感染し、降雨や強風により発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **ナシヒメシンクイ**の発生は、北陸及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。

## 茶

- ・ **カンザワハダニ**の発生は、北九州の一部地域で「多い」と予想されます。この時期は、天敵のカブリダニ等の土着天敵が増殖するため、防除が必要ない茶園もありますが、発生が多くなると予想される茶園では、発生状況に応じて防除を実施してください。
- ・ **チャノコカクモンハマキ**の発生は、南関東、東海、近畿及び九州の一部地域で「多い」、**チャハマキ**の発生は、南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
これらの害虫は、成虫発生最盛日の7~10日後が薬剤防除適期になります。地域の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況を参考に、防除を実施してください。
- ・ **チャノホソガ**の発生は、南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。本害虫は、萌芽期～開葉期に成虫が発生すると被害が大きくなります。新芽への産卵を確認して、萌芽期から開葉期に防除を実施してください。
- ・ **チャノミドリヒメヨコバイ**の発生は、南九州の一部地域で「多い」、東海の一部地域で「やや多い」、**チャノキイロアザミウマ**の発生は、南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。  
新芽生育期にこれらの害虫に加害されると芽の生育が抑制されますので、適期に防除を実施してください。  
チャノミドリヒメヨコバイは開葉期頃、チャノキイロアザミウマは萌芽期頃が防除適期になります。

### 都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

平成25年5月11日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は以下のとおりです。

## ■ 警報

重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

- ・ 発表はありません。

## ■ 注意報

警報を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。

発表月日	都道府県名	対象作物名	対象病害虫名
5月15日	京都府	豆、野菜全般	アブラムシ類とウイルス病
5月20日	三重県	茶	チャノコカクモンハマキ
5月24日	秋田県	水稻	イネミギワバエ（イネヒメハモグリバエ）
5月28日	埼玉県	茶	チャノコカクモンハマキ
5月30日	北海道	アブラナ科野菜等	ネギアザミウマ
5月30日	和歌山県	もも	せん孔細菌病
5月31日	福岡県	茶	カンザワハダニ
5月31日	福島県	なし	黒星病
5月31日	埼玉県	水稻	ヒメトビウンカ（縞葉枯病）
6月5日	香川県	いちご	うどんこ病
6月5日	香川県	野菜類、花き類、ハウスマキ	ネギアザミウマ

## ■ 特殊報

新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発生消長に特異な現象が認められた場合に発表します。

発表月日	都道府県名	対象作物名	対象病害虫名
5月27日	和歌山県	うめ	輪紋病
5月31日	大分県	ピーマン（夏秋作）	ワタアブラムシ（ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性低下個体群）
5月31日	大分県	トマト	黄化病
5月31日	徳島県	茶	チャトゲコナジラミ
6月3日	神奈川県	トマト	萎凋病 レース3

## 用語解説

### 地域

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県  
  北東北：青森県、岩手県、秋田県  
  南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県  
  北関東：茨城県、栃木県、群馬県  
  南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山县
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県  
  北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県  
  南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

### 発生量（程度）

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

（平年値は過去10年間の平均）

### 平成25年度発表予定日

- 第4号：7月11日（木曜日）
  - 第5号：7月25日（木曜日）
  - 第6号：8月15日（木曜日）
  - 第7号：9月19日（木曜日）
  - 第8号：10月17日（木曜日）
  - 第9号：11月14日（木曜日）
  - 第10号：平成26年2月13日（木曜日）
- （参考）これまでの発表
- 第1号：4月18日（木曜日）
  - 第2号：5月16日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班 黒谷、後藤

代表：03-3502-8111（内線 4562）

ダイヤルイン：03-3502-5976

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>